

手記

大牟田の空襲といっても、もう三十七年も前の事。記憶をとり戻そうと思っても、ぼんやりとした思い出しか残ってなく、ただ戦争が終るまで日本の勝利を信じていた事だけは忘れられない事実です。

ミッドウェー海戦を境に、物資を誇るアメリカの総攻撃が始まり、日本は敗戦への一途をたどり始めました。ガム、サイパンなどを失ってからは日本本土への空襲が本格化し、化学工場群をもつ大牟田へも、やがてその日がやってきました。

米爆撃機が大牟田を初空襲

昭和十九年十一月二十一日、日曜日だったと聞いています。朝から友人とつれだつて、私は荒尾の山に出かけました。間もなく、青く澄みわたった空に空襲警報のサイレンが鳴りひびき、ほどなく爆音の尾をひきながら、南の方から、銀色に輝いた爆撃機・戦闘機が数十機姿をあらわしてきました。私達は山の手(荒尾)にいたので、手にとるようによく見えたものです。

編隊が、ちょうど大牟田の上空にさしかかった頃、当時延命公園に置かれていた対空高射砲陣地から、一斉に砲撃が始まりました。編隊の周辺に弾幕が張りめぐらされますが、なかなか当たりませんでした。

そのうち、編隊のなかの爆撃機の一機(B24だった、と思います)が高射砲の直撃弾をくらいい、空中分解しました。同時に落下傘が二つ、三つ開き、空から舞うように落ちていきました。それよりも早く、編隊から投

下された爆弾の雨が地上に向かつて降り注ぎ、ものすごい爆発音が上がりました。藤田には叔父が住んでいたの

アメリカの飛行機が落ちたのが三川町方面でしたので、家のことが心配になり、すぐ帰路につきました。だが、そのあとが大変でした。味方の一機が落ちていたので、「よしカタキ討ちだ」とばかり、大牟田方面では、飛行機が落ちた現場に入っていることができません。機体には、爆発でできた大きな穴がいくつもあり、煙、草木、家屋などは吹き飛ばされ、人が数人無残な姿で倒れ、なかには埋もれた人さえあって、まさに生き地獄でした。

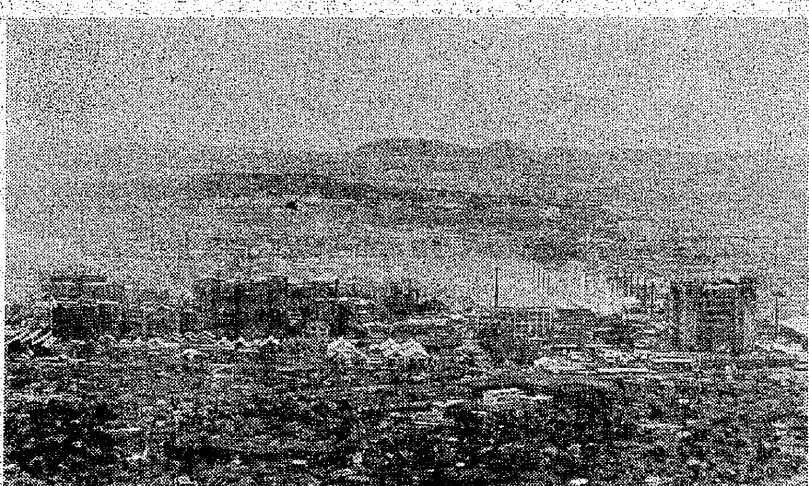
叔父の家は吹き飛ばされ、なくなつていて、叔父の体は行方不明。(後になってから、直撃弾をかぶって死亡したことを知りました)

その日は染料工場(現在の三井東化学大牟田工場)などを中心に爆撃が行われ、相当な被害と死者が出たことを聞かされていきます。

太平洋戦争の思い出

二度とあの悲惨をくり返してはならぬ

14分会(三川) 宮原正満



写真は、化学工場地帯。太平洋戦争のとき、ここに空から敵の爆弾が雨のように降りそそいだ。あとは、廃墟に……。

翌年六、七月に再度来襲

翌二十年には、六月と七月の二回にわたり、夜間爆撃隊による空襲がありました。

「ザッ」と、不気味な音を立てて落ちてくる焼夷弾。大牟田の街は甚大な被害をこうむり、映画館で残ったのは、三川町の友楽館一つだけだったので、戦後は押す押すの盛況ぶりが見られたものでした。

そのあと、広島と長崎に原爆が投下され、そして終戦を迎えましたが、この戦争で、日本では三百万あまりの人が死んでいます。

二度と戦争起こさぬために

今こそ、次代を担う若い人びとに、戦争の悲惨さを語り継ぎ、今後二度と戦争への道に走らないように覚悟すべきではないでしょうか。あのような悲惨な戦争と死者が出たことを聞かされていきます。

手記

職場に、地域に軍国主義の足音を聞く。

一九四五年八月六日午前八時十五分、軍都・広島にウラン

原爆が投下され、その日がまたまためぐって三十三年度目をむかえました。

広島に死者十七万人、長崎八万五千人。そして国民的屈辱はとどまることなく、今日もつづいています。



原水禁長崎大会に参加して

二十三分会(三川) 池畑重富

統一を前提に努力を

核危機のなか、各国で決起

たどる最近の日本の動向。

五月上旬、日米共同声明に見る「同盟関係」。

それをうらむ軍事費の増強に、非核三原則の「核を持ちこませず」の空洞化。

核兵器へ直接つながる、原発核エネルギー開発……など、目にあまるものがあります。

統一を守ることを大前提に

世界大会での「分科会」のなかで、頭にこびりついた内容は――

(1)被爆者でありながら長崎造船所で働く労働者の報告のなかで、

「三菱重工長崎造船所では兵器製造が公然化し、その工場のみ人員が増員され、残業・運動が強制されている。

その職場には国旗が「掲揚」されている。

この職場では、労働者(国民)は、あたりのことはいえず、差別支配・植民地支配が優先して

の自身の意識をひたむき、そのよりどころを求めての参加にはかなりませんでした。

唯一の原爆被爆国でありながら、戦争政策・核武装への道をひたひたと感ずる」

ぐいとしめあげた。

(2)世界的に核危機問題が深刻化するなかで、たとえばオーストラリアではウラン鉱採掘のために先住民は土地を取り上げられ、採掘に動かされて不意な死をうけているのは、その原因は明らかでない。

「私たちは連帯、出港時に反対して闘っている。私たちの闘いを支持してほしい」など訴えられた。イギリスやフランスでは、「ノーモア・ヒロシマ、ナガサキ」のデモが果敢に行なわれ、アメリカ国内でも反戦の取り組みが行なわれるなど、反戦も強まっていることを知った。

(3)今大会で、非核三原則の取り組みの方向をめぐって、「法制化だ」「堅持だ」と意見が大きく二つに分れ、統一大会に暗いさしを感じられた。

私たち唯一の被爆国民として、世界の、反戦平和を求めて闘う仲間のためにも、統一大会を守り抜く前提として、進めは違っても、何を問題かをハッキリさせ、その解決に努力しなければならぬと思いました。

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

知弘さんの手記を読んで

青森 青名畑隆一

新聞、みいけの編集委員の告動という合理化攻撃で、今年度にさん、お元気でしようか。新聞に入ってから二名の仲間が殺されま

を思い、また三井に対する怒りがこみあげてくるのを察し得ないのです。

私たちの職場でも生産性向上運動という合理化攻撃で、今年度

新聞、みいけの編集委員の告動という合理化攻撃で、今年度に入ってから二名の仲間が殺されま

ぐいとしめあげた。

(2)世界的に核危機問題が深刻化するなかで、たとえばオーストラリアではウラン鉱採掘のために先住民は土地を取り上げられ、採掘に動かされて不意な死をうけているのは、その原因は明らかでない。

「私たちは連帯、出港時に反対して闘っている。私たちの闘いを支持してほしい」など訴えられた。イギリスやフランスでは、「ノーモア・ヒロシマ、ナガサキ」のデモが果敢に行なわれ、アメリカ国内でも反戦の取り組みが行なわれるなど、反戦も強まっていることを知った。

(3)今大会で、非核三原則の取り組みの方向をめぐって、「法制化だ」「堅持だ」と意見が大きく二つに分れ、統一大会に暗いさしを感じられた。

私たち唯一の被爆国民として、世界の、反戦平和を求めて闘う仲間のためにも、統一大会を守り抜く前提として、進めは違っても、何を問題かをハッキリさせ、その解決に努力しなければならぬと思いました。

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……

最後に、平和は祈りや願ひだけにとどまらず、反戦平和の理想を勝ち取り、広げる闘いであり、職場、地域、生活のなかで、軍事増強・核武装化の事実を「ひとつひとつ明らかにする努力から始めなければならぬ」と思いました。

祈りや願ひだけでは……